

会 議 録

会議名 (附属機関等名)		第15回 川西市参画と協働のまちづくり推進会議	
事務局(担当課)		地域分権推進課	
開催日時		平成25年1月31日(木) 午後6時から午後7時40分	
開催場所		庁議室	
出席者	委員	岩崎委員、荻田委員、岸本委員、佐藤委員、斯波委員、土肥委員、田中委員、中井委員、三木委員	
	その他	地域・相談課長	
	事務局	総合政策部長、政策推進室長、地域分権推進課長、同課主査、同課主任、同課主事	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1 開会 2 議事 (1) 委嘱状交付 (2) 市長挨拶 (3) 会長及び副会長の選出について (4) 諮問 (5) 部会の設置及び部会長の選出について (6) 会議公開運用要綱等について (7) 今後の進め方について (8) その他 3 閉会	
会議結果		別紙議事録のとおり	

議事

(1)委嘱状交付

< 市長より各委員へ委嘱状を交付 >

(2)市長挨拶

○市長

- ・ 参画と協働のまちづくり推進会議は、平成 22 年 10 月に施行した、参画と協働のまちづくり推進条例に基づき、新たに設置をしたところである。
- ・ 平成 22 年 12 月に第 1 回の推進会議を開催し、これまで主に参画と協働のまちづくりを推進するための基本計画について、ご審議を頂いた。この基本計画(案)については、今現在、議会の方にもご意見を賜っており、来年度からスタートする第 5 次総合計画と合わせ、この 4 月からスタートしようというところである。
- ・ 委員の皆様方には、条例の規定に基づき、引き続き参画と協働のまちづくり推進に関してのご審議を賜りたいが、その中でも、特に地域分権制度について集中してご審議を頂きたい。
- ・ 地域分権制度は、これまで行政が主導してきた地域の課題に対し、地域住民の皆様方に自らその解決にあたって頂こうというもの。既に、色々なところで課題解決にあたって頂いているが、移譲される一定の権限と財源を利用しながら、今まで以上に、より活躍して頂ける方に、頑張ってくださいと仕組みを構築していく。
- ・ 大きなテーマだが、将来の自治体経営を考えると、やはり必要なことであろうと思っている。
- ・ 今、市では、地域夢・未来カフェと題したワークショップを 14 地域で開催し、具体的な地域の課題を考えることによって、地域分権制度のあり方に繋がる意見を頂いているところである。
- ・ その結果を踏まえ、推進会議においても、地域分権制度の具体的な仕組みについて、地域の皆さまの意見をたたき台にして、審議を賜りたいと考えている。
- ・ 委員の皆様方にはそういう趣旨をご理解いただき、皆様方それぞれご経験をお持ちだと思うので、それぞれの角度から議論を賜るようお願いする。

(3)会長及び副会長の選出について

○委員

< 名簿順に自己紹介 >

○事務局

<自己紹介>

会長、副会長の選任について、委員より事務局に一任との声があった事務局から、会長に岩崎恭典氏、副会長に土肥千生子氏を提案し承認された

○副会長あいさつ

- ・3年目ということで、メンバーも変わった。新しい、若い大学生まで来ていただいた。
- ・楽しいひと時になることを期待している。

<会長は遅れて到着予定>

(4) 諮問

<市長が諮問書朗読し、副会長へ手渡し>

(5) 部会の設置及び部会長等の選出について

(部会の設置について)

○事務局

- ・これまでの推進会議の中で、今後専門部会を設置して審議していくことを事務局からスケジュールとして示していた。これは限られた期間内で、専門的かつ集中的に議論を進めるため、専門部会を設置するもの。
- ・専門部会で一定の方向性が出たら、それをベースにして、さらにこの推進会議で議論を進める。
- ・最終的には、推進会議として地域分権制度についての基本方針を出していただきたい。

参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第8条第1項の規定「会長は、必要があると認めるときは推進会議に部会を設置することができる」により、専門部会を設置することを決定

(部会長等の選出について)

参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第8条の規定「部会の委員および部会長は会長が指名する」により、土肥副会長が下記のとおり指名

専門部会 部会長 田中 晃代 委員
専門部会 委員 岩崎 恭典 委員
土肥千生子 委員

専門部会には参考人として下記 2 名に参加いただく

同志社大学大学院 総合政策科学研究科 新川達郎 教授
帝塚山大学大学院 法政策研究科 中川幾郎 教授

(6) 会議公開運用要綱等について

○事務局

- ・資料説明（資料 2、4、5
- ・議事録については、これまで全文を文章に起こしていたが、1 か月という期間の中で公開していくというところに、かなり事務作業が厳しい状況になっている。
- ・委員の皆さまには、議事録の確認にかなり負担をおかけしている。
- ・2 期目の推進会議から、少し要約した形の議事録を作成したいと考えている。皆様の発言の趣旨を変えるものではなく、例えば、論点を示した見出しを付けたりとか、ご意見を箇条書きで整理するなど、誰もが見やすいような形で要点をまとめたいと考えている。

○副会長

- ・ただいまの説明について、ご質問はないでしょうか。
- ・議事録の変更についても、ご意見を賜りたい。一言一句の議事録を経験されている委員はお分かりだと思うが、なかなかのボリュームで確認が大変だなと私も思っている。
- ・要約するのも大変だとも思うが、少し工夫をしたいという事務局のご意見なので、私もやってみたらどうかとは思っている。

○委員

- ・いつも議事録を拝見し、自分の発言がなんて薄っぺらいのかと思っている。要約することには大賛成。

○委員

- ・要点をまとめていただいたら、それは一番いいと思う。

○委員

- ・要約していただくのはありがたいと思う。

○委員

- ・大賛成である。

○副会長

- ・会議の公開については、会議公開運用要綱および、傍聴要領に規定の通りに運用すること、また会議録の運用方法については事務局の提案通り要約した議事録について各委員が発言箇所を確認したうえ、最終承認は会長が行うこととする。

<会長が到着>

○会長あいさつ

- ・豊中で地域のことに関わっていたら、隣だから川西でも手伝ってくれないかという話しがあって、川西市の参画と協働のまちづくり推進条例に基づいて、それをどういうふうに具体的に進めていくかという推進計画づくりのお手伝いをさせていただいた。
- ・地域内の分権の仕組みも、これから具体的に検討していくことでもあるので、引き続き、参加をさせていただくことになった。

(7)今後の進め方について

○事務局

- ・資料説明（資料6）

○会長

- ・これから我々が検討することは、大きくは2つ。
- ・1つは、地域分権制度をこれから具体的に検討していくので、それについて皆さんにご意見をお伺いすること。平成25年度前半は、地域分権制度の議論が中心となる。
- ・もう1つは、平成25年度から始まる参画と協働のまちづくり推進計画の進行管理をすること。

○委員

- ・第5次総合計画と参画と協働はどうリンクをするのか。参画と協働のスケジュールとリンクするところがあるのか。全く別と考えていいのか。

○事務局

- ・総合計画の実現にあたっては、参画と協働が基本だということになっている。
- ・さきほど進行管理という話があったが、その項目は総合計画の中のそれぞれの施策ごとに実施していく事業がそのまま進行管理として出てくる。
- ・参画と協働のために改めて、事業をしていくのではなく、総合計画の中で実施していく施策なり事業が、参画と協働という手法を用いながら、まちづくりを進めていくような関係である。

○委員

- ・審議会の果たすべき役割をもう少し具体的に教えてほしい。
つまり、事務局から示される構想や原案についての質疑や諮問的な役割を果たすことのほかに、新たな方針なり施策などを創造的に提案できるのかを確認したい。

○会長

- ・参画と協働の取組みについて、「これが進んでいる。進んでいない。課題がある。」という説明が事務局からある。それが、本当にわかりやすい説明だったか、あるいは、本当に市民の皆さんに通じる説明なのかどうか、をチェックする役割がある。
- ・分かりやすい説明になっているのか、あるいは市民から見てもう少しこういうことを充実させた方がいいという、意見を言う役割もある。
- ・時代の変化が激しいので、推進計画で大きく抜けているところも無いわけではないだろう。そういうものに気づいた場合には、追加した方がいい項目も、おそらくこの推進会議の中では言わないと逆にいけないのではないか。
- ・意見申すだけでなく、創造的な意見も私はぜひお願いしたいと思っている。

○委員

- ・その進捗管理というのは、資料6 推進スケジュール（案）が大きなスケジュールであって、更にもう少し具体的な行程は資料としてあるのか。それとも、これから作られるのか。
- ・つまり、何についてどう進捗を管理するか、示して欲しい。

○事務局

- ・推進計画の中に取り組み項目があり、その中に成果目標や施策評価指標がすべて決められている。推進計画は25年度から進むので、1年たった26年度の時点で、市民アンケートや職員アンケートの結果も用いながら進捗状況を報告するので、意見をいただきたい。
- ・推進会議の役割として、進捗管理という面はあるが、当面は地域分権制度について、ご審議を沢山いただきたい。

○委員

- ・スケジュールの方がしっかりできていて、我々市民あるいは地域の方がこのスケジュールについていけるかどうかという不安もある。
- ・地域によって、地域分権の担い手となるコミュニティがしっかりしているところ、あるいは弱体化しているところなど、地域によってそれぞれの課題がある。
- ・地域の実態や状況に合わせたスケジュールに沿ってほしい。現実には変更があってもいいだろうし、そういうやりとりができる仕組みもぜひ作っておいてほしい。

○会長

- ・今のご意見が、まさに付託を受けている専門部会で具体的に議論していかなければいけない論点の1つだろうと思う。
- ・川西の全地域で一斉に検討が始まって、同じように地域の組織が一斉に立ち上がることは、かえっておかしな気がする。
- ・地域によって状況も違うので、それを全部同じように市は扱ってはいけないことを、専門部会では議論することになると思う。
- ・住民が主人公だから、住民の皆さんに組織を立ち上げる手続等についてはお任せをしないとイケない。きっちりと手続等きを踏んでいるかどうかを、専門部会で議論することになると思う。
- ・その結果として、できあがってくる地域分権にかかる地域の仕組みとか、そのために必要な条件は、市として公平性を保つため、オール川西で最低限もっておかなければいけないものを決める必要があると思う。

○委員

- ・制度は絵に描いた餅ではいけない。良い制度をいくら作っても運用する側がそれをできなければ、意味が無い。絵に描いた餅ではなくて、食べられる餅にしようと、いつも現場の人たちと一緒にまちづくりをおこなっている。
- ・私も含めて、専門家も川西のことをよく知っている訳ではないので地域の実情も丁寧に意見を聞きながら進めていければと思う。
- ・現場に行った時に、果たしてこの制度でうまく回っていくのだろうかというようなチェックをすることは基本だと私は思っている。

○委員

- ・すごく安心した。ただ、本当に心配なのは、せっかくのすばらしい計画とアクションが、広く地域住民に浸透せずにコミュニティ役員だけで、大事な25年度が進行してしまう事を恐れている。
- ・地域住民に対して、コミュニティの課題や運営内容を共有していくことは、本当に時間がかかる。
- ・地域分権を推進しているいろんな先行地域の取り組みの失敗例、成功例などもこの委員会で先生方から教えていただけるとありがたい。
- ・担い手の中心となるコミュニティも変わらないとイケないことがかなりある。分権プランの実行、推進は大事だが、じっくりと時間をかけて地域住民に広げるように進めていくことも大切だと思う。

○委員

- ・市長の言葉が何かに、一律にスタートということは考えてない、地域性をふまえて考えようという言葉があったと思う。

- ・新しいことなので、コミュニティがしっかりしているから出来るという問題でもない。
- ・住民が納得するというのは時間がかかる。でも、進めるところは進めるという事。
- ・委員の意見は、全く、本当の問題点でもあると思う。

○委員

- ・そうだと思う。ついつい横並び意識があるし、行政からしてみると綺麗なかたちを求めてしまう。それは避けないといけない。

○委員

- ・問題点をどんどん出していただきたい。
- ・角度を変えてみると、違う問題点が出ることもある。

○委員

- ・ただ、地域別構想を、一応地域でまとめているので、地域のあるべき姿というか、たたき台みたいなものはすでにある。それを1から作っていく話しではないので、見やすいかなという気がする。

○委員

- ・もともと、地域が盛り上がり予算が欲しいという話ではない。
- ・地域別懇談会から始まって、何か降りてくるということで、地域でオリジナルを考えないといけないことで考えている。今後、これは地域が望んだことだと言われると、違和感があるが、しかしそこを乗り越えていこうとはしている。
- ・コミュニティの組織も変えていくくらいのことになるのではないかという話しは出てくると思う。

○委員

- ・私の地域も、地域夢・未来カフェがすでに終わったが、地域分権自体を役員が全然理解できていない。
- ・今度4回目を開催し、地域分権について具体的に説明してもらおうよう取り組んでいる。そこから始めないと、コミュニティを受け皿として進めていくのが非常に難しい。
- ・地域夢・未来カフェのなかで、業者の進行により、地域が取り組むプランを作り上げたが、あれが地域の本当の望みではない。これから生まれていくものだと思う。

○委員

- ・それに関連して私も同じです。地域夢・未来カフェのなかで、グループで考えて提案したプランを実行したらどうかという話になった。それは良いが、地域で共有する前に実行ありきの拙速な事例作りでは意味がない。継続性がなく、一過性なものになる。
- ・地域夢・未来カフェは、コミュニティの関わりがある人がかなり集まり、地域分権を考える機会になってすごく良かった。この延長を地域の皆で考え、プランを膨らます

ことが本来の趣旨のはずなのに、地域夢・未来カフェが終わると元に戻ってしまう。

- ・せっかくいただいた成果を皆で考える時間が欲しい。もう少し地域の中で拡散するために、行政の方に入っていて、力を貸していただきたいし、時間が欲しい。
- ・地域分権だからといって地域だけでなく、行政や推進会議の皆様も地域と一緒に助走してほしい。徐々に地域が運営力を蓄えてゆき、自立していければいいと思う。

○会長

- ・それは充分わかる。地域のそういう動きをアシストしていく仕組みとして、地域担当職員制度が4月から立ちあがるという事ですか。

○事務局

- ・地域分権制度自体は出来上がるのがもう少し先ですが、当然準備期間は必要になってくる。地域担当職員は、4月から配置する。
- ・地域夢・未来カフェでアクションプランを考えてもらったが、これは実際に課題を解決するプランを考えてもらいながら、地域分権制度の構築につながる素材をいただく趣旨である。
- ・アクションプランの実行は強制するものではない。ただ、地域の中で気運が高まれば、実行してもらえると嬉しい。
- ・アクションプランの実行も支援するので、お声掛けいただければ、当課の職員が地域に行かせてもらう。

○会長

- ・資料7については、読んでいただくという事になるが、一度きちんと説明してもらう必要もあると思う。
- ・この会議の任務についてご説明を頂きましたが、ご理解いただけましたか。

○委員

- ・自分にどんな意見が出せるのか、自分に何ができるのか、今は想像できない。

○会長

- ・川西に住んでおられて、地域の様々な活動を皆でやれる仕組みをどのように住民で考えたらいいのか。そのためには、私はお金の問題は避けて通れないと思う。お金をどこから持ってくるのか、それを皆が使える仕組みをどう作っていくのかというのが、たぶん地域分権であると思う。
- ・地域分権をうたっているわけではないが、私の関わっているところでいうと、三重県の伊賀市で今週日曜日にお買い物バスのシンポジウムを行った。
- ・買い物に行きたくても行けないお年寄りをグループにして、バスでスーパーまで連れて行くことを実験的に始めた。最初の半年は200万円くらい補助を県と市から受けて実施をした。

- ・そういう実験をほぼ1年やっていたら、スーパーが引き受けることになった。今は、スーパーがお金を出して無料の運行バスを走らせ初めている。
- ・これは住民の方がニーズを掘り起こした事例である。スーパーとしても、客の囲い込みができるので、おいしい商売になる。
- ・日曜日のシンポジウムの後、そのスーパーを見に行くと高齢者向けに店舗を改装している。棚を低くしていて、低いところにしか商品が置いていない。値段表示が大きい。レジの横には虫眼鏡があるなど工夫してある。
- ・買物難民を防ぐという課題に対し、団体さんは車を最初に用意し、付添いの人がい物を手伝い荷物を運ぶ。それでスーパーは売り上げに確実につながり、店舗の改装まで踏み切った。
- ・皆で少しずつできることをしていけば、無料の買い物バスできたという話だが、この事例を川西でもダイレクトに持ちこめるかと言われたらそれは無理。川西なりのやり方が必要。
- ・ただ、そういうケースがあるのなら、それを参考にしながら、川西ではどうアレンジできるかを協議する場が地域には必要だろう。そういう場をまず設けることが、地域分権制度で最初にやるべきことではないか。

○委員

- ・資料7の中で、19ページ6番の「地域分権にかかる権限や財源について」が気になる。地域の中では、地域分権でやることの中身よりも、まず地域に財源がつくことが話題になりやすい。仕事もくるけど、今まで多少やっているし、ひょっとしたら人件費も何とかなるのではないかと、人も絶対集まるといように、誤解というか先走っているところもあるのではないかと。財源がつくから事業ができるではなくて、計画された事業やプロジェクトの公益性や採算性などの事前調査もする必要があるのではないかと。
- ・これは地域にとって大きな関心ごとなので、具体化するための基準作りについて、十分な審議をお願いしたい。

(8)その他

○事務局

- ・専門部会の日程は、2月27日夜と、3月23日昼間で確定している。
- ・次の推進会議の日程は、改めて調整する。

○委員

- ・前回までは、市民活動センターが出席していたが、今後協議進めていくうえで、出席は考えているのか。

○事務局

- ・参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第9条に基づき、参考人としてお越しいた

だいている。推進会議のメンバーからの要請があれば、おつなぎする。

○会長

- ・分権制度の議論の中でも、推進計画の検証の部分でも、お話しを聞かないといけないことはあるだろう。当事者でもある。

○委員

- ・地域で活動されようとしている、または、されている団体は、NPOをはじめ沢山おられる。それをつなぐツールをお話しできる人として必要ではないか。
- ・市民活動センターは、地域の観光資源や文化などの発展に関わる活動をされている団体の拠点にもなっている。地域の運営を支援する主体となり得る、そのような団体の情報を持っている市民活動センターが推進会議に参加いただければ一番いいと思う。

○事務局

- ・今日のご欠席ですが、委員のなかには、NPO 法人の代表である高木さんもいる。

○会長

- ・中間支援組織である市民活動センターの指定管理者としての立場で、お話をお伺いしたいので、参考人として来てもらえるか意向を聞いてほしい。